

## トピック — 野菜の小売価格の動向 —

平成25年の野菜の卸売価格は、春先の低迷、夏の猛暑と秋の台風襲来等による高値基調などの変動がみられたが、小売価格にも特徴がみられた。

当機構が平成25年4月から開始した「小売価格動向調査」によると、小売店舗での最多販売単位（1個売り又は袋売り等）の価格は、販売単価の高いトマトやなすなどを除き、多くの品目がおおむね100~200円の幅に収まっていた。

一方、秋以降の卸売価格の高値基調の下での変動もみられ、特に12月は、1個売りの形態が多いキャベツとレタス、袋入り売りの形態が多いなすは200円を超え、トマトも300円を上回った。

また、キログラム当たりの小売価格、卸売価格及び小売価格と卸売価格の差額（小売店舗の経費、利潤等に相当する額）の動きをみると、①トマトは、10~12月の小売価格が800円/kg前後の高値水準となる中で、小売店舗の経費等相当額が縮減傾向となったこと、

②キャベツは、卸売価格と小売店舗の経費等相当額の相互の連動性が高いこと、

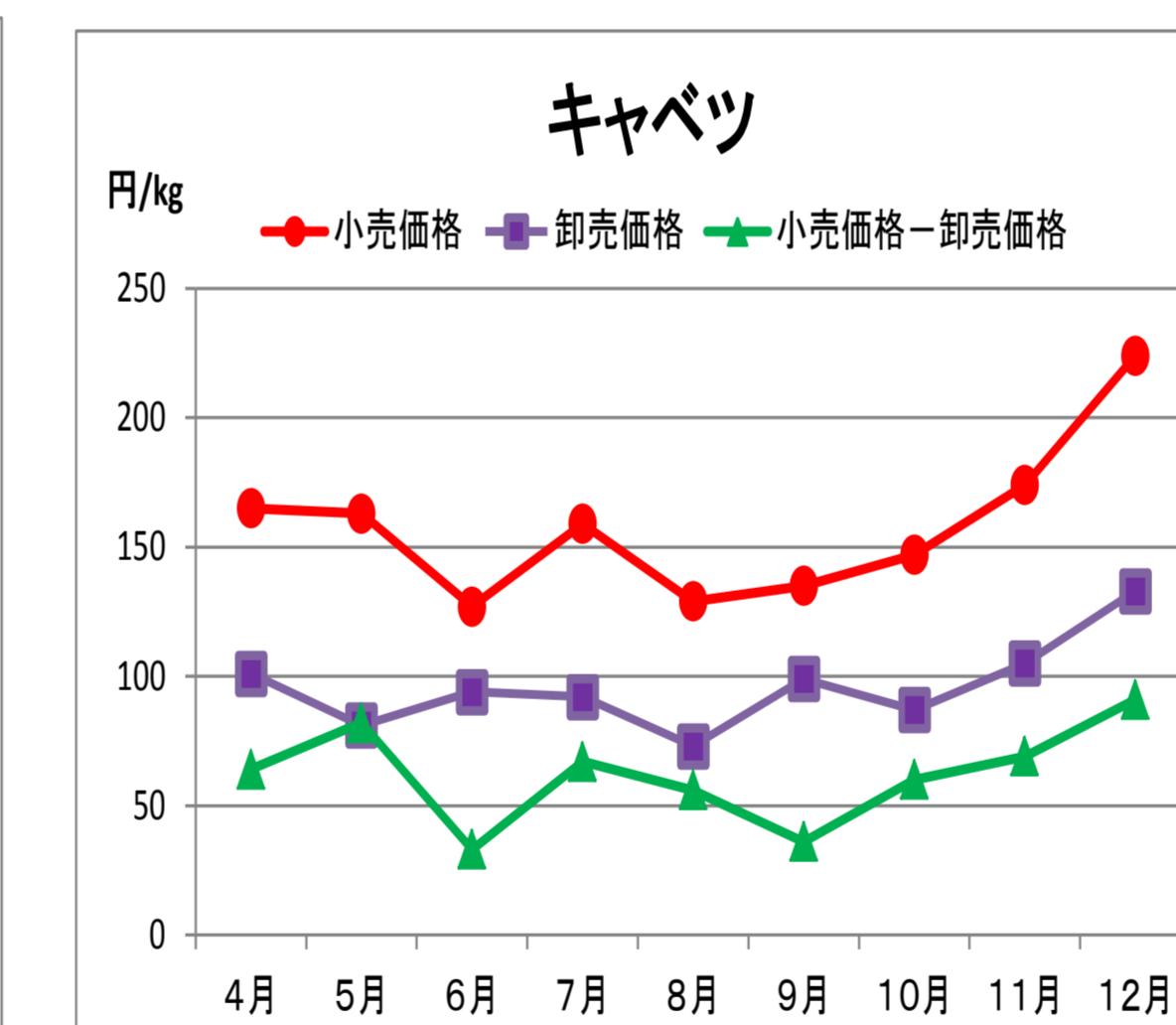
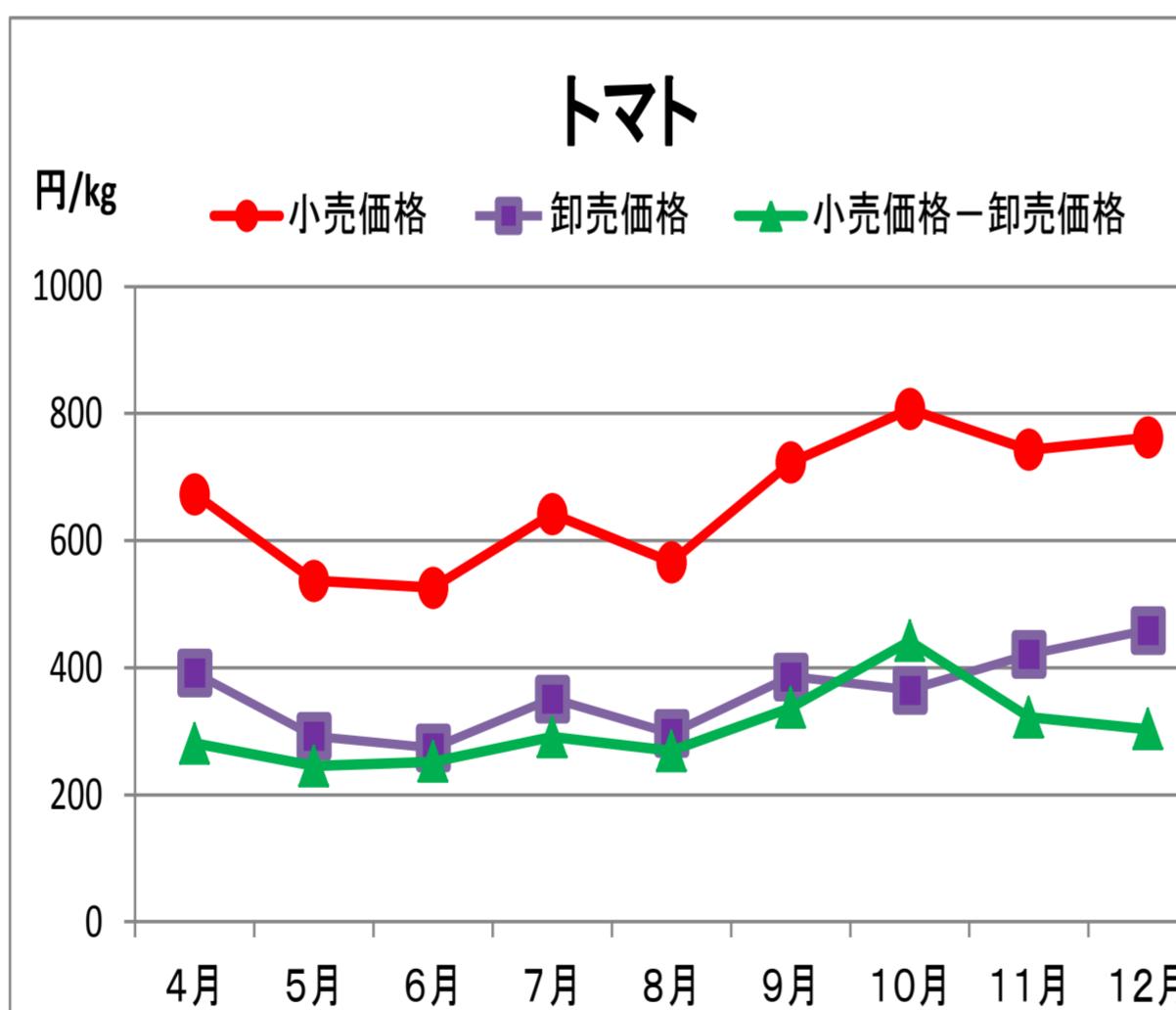
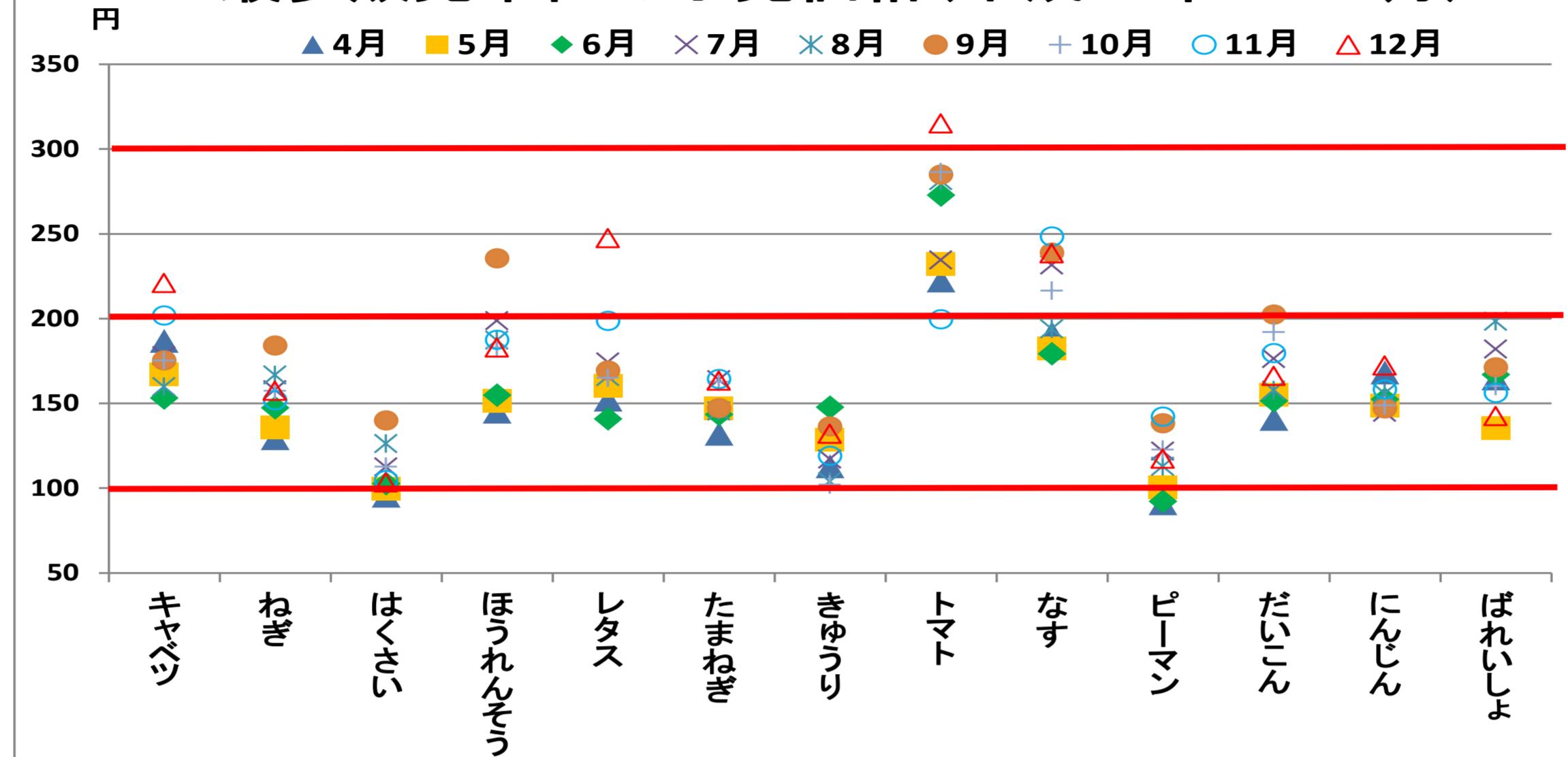
③きゅうりは、9~12月に卸売価格が大きく変動したものの、小売店舗の経費等相当額はほぼ一定の水準にあったこと、等の品目による特徴がみられた。

これら品目毎の特徴には、作柄の良否等に伴う卸売価格の高低、消費者の値頃感を意識した小売価格水準の設定、販売単位や販売単位当たりの量目の違い、小売経費等相当額の小売価格への反映の程度など、様々な要因が影響しているとみられる。

本年も、これら小売価格調査等のデータの分析も含めて、野菜に関する的確な情報提供に取り組んでいくこととしている。

野菜小売価格動向調査は、こちらから。

### 最多販売単位の小売価格(平成25年4~12月)



(注)

1 札幌市、仙台市、東京23区、金沢市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市の9都市で、月1回（原則として毎月第2金曜日）、調査を実施。1都市について、10店舗調査。調査品目は、さといもを除く指定野菜13品目。ねぎは、札幌市、仙台市、東京23区、金沢市、名古屋市は、白ねぎの小売価格、大阪市、広島市、高松市、福岡市は青ねぎの小売価格。

2 「最多販売単位の小売価格」は、品目ごとに1店舗につき一番販売面積が広いと報告された販売単位の小売価格で、品目ごとに平均値をグラフにした。

3 品目毎の主な最多販売単位

キャベツ：1個、ねぎ：白ねぎは2~3本、青ねぎは、1束、はくさい：4分の1、ほうれんそう：1把、レタス：1個、たまねぎ：3個、きゅうり：1~3本、トマト：1~5個、なす：2~5個、ピーマン：4~5個、だいこん：1本、にんじん：3本、ばれいしょ：3~7個

4 「小売価格」は、1店舗毎の最多販売単位に係るkg当たりの平均価格（10店舗平均）の9都市平均値。

5 「卸売価格」は、全国の主要な中央卸売市場（10市場）の卸売価格の平均値で、「卸売価格」は、調査都市にある中央卸売市場の調査日が属する旬の卸売価格。

資料：農畜産業振興機構「野菜小売価格動向調査」、農林水産省「青果物日別取扱高結果」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。